

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971800038		
法人名	川西町		
事業所名	ぬくもりの郷グループホーム		
所在地	奈良県磯城郡川西町大字吐田94番地		
自己評価作成日	平成24年2月3日	評価結果市町村受理日	平成24年3月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内
訪問調査日	平成24年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>恵まれた外部環境とともにゆったりとした居住空間をもって、それぞれが穏やかに生活を送っていただけるよう取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、地方公共団体が設置し、社会福祉法人に委託され運営されています。大きな屋根はすばらしい瓦で覆われ風格さえ感じられます。また、ホーム内は清掃が行き届いた明るく広い共用空間が確保されており、季節を感じられる適度な装飾もなされ、ゆっくり・穏やかに過ごせる場所となっています。利用者は、このような環境の中で、職員の優しい見守りの下、特技等を活かしながら一人ひとりのリズムで生活されています。</p>

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4項目の理念を職員一人ひとりが理解し、実践につなげるよう努力している。	利用者の意思及び人格の尊重を基軸に、地域との結びつきを重視した理念があり、職員会議等において、これが浸透と実践に活かすための取り組みがなされています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	立地的に地域との交流は行いにくい、敷地周囲の畑に作業に来る人とのつながりを大切に、世間話などもよくしている。 また、町の行事にはできるだけ参加するよう心がけている。幼稚園児との定期交流も始めている。	立地的な環境から、日常的な交流に希薄感がありますが、町内行事への参加や幼稚園児との定期的交流、また、周辺で農作業をしている方々との交流等地域との関わりに拡がりが見られます。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、実習、相談等の機会を活かしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的におこない、意見交換をもって、これを活かすようにしている。また、その都度課題を設けるように心がけている。	会議は定期的開催され、利用者の現状や行事計画の報告・当面の運営上の課題等について話し合いがなされ、開陳された意見を検証し、運営に反映させる取り組みがなされています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政が事業主体で運営を委託されているので連携を密にしている。	事業所の設置主体が行政であることでもあり、連携は密に図られています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中はおこなっていない。 拘束をしないケアに努めている。 研修もおこなっている。	身体拘束による弊害を全ての職員は正しく理解され、支援の中で実践されています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会をおこない、日々意識付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については概ね理解できるが、細部については学ぶ機会を得ていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方の不安や相談等契約時のみでなく、日ごろから十分コミュニケーションを図り、話せる環境をつくっている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方の要望等はできる限り受け止めている。なお、運営推進委員会でも議題として話し合っている。	家族の訪問時等に意見・要望等を聞き出す取り組みがなされ、寄せられた意見等は記録・検証し運営に活かす取り組みがされています。それと共に、運営推進会議や家族会の活用により、幅広い意見聴取の機会とされています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のGH会議、または日々、意見提案できる機会を設け、反映できるようにしている。	定期的に行われている職員会議等を、意見・提言する機会に活用されており、出された意見等を検証し運営に反映する仕組みがあります。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に福利厚生面に気をつけ、仲間意識につなげている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で計画的に行っている研修会には多くの方が参加し、トレーニングを行っている。尚、参加できないものについては研修記録を確認している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内の特養・デイサービスとの勉強会及び職員の交流があるが同業者との関係が実践できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションを図り、傾聴できるよう努めている。 また、入所時に家族等の要望等聞くようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、または相談に来られた場合聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極め対応に努めると同時にアドバイスもおこなっている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ドライブや神社参り、畑の収穫等ともに喜びを感じていくようにしている(季節の行事) また、日課の手伝いをさせていただき、関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に面会時には話し合いをおこない、必要に応じて電話等をする。 職員は食事を一緒にいただき、より関係を築くようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の生活の中で本人の馴染みの人たちの話を聞かせていただいたり、思い出が途切れぬよう努めている。 デイサービス利用者との交流も多い。	安定した生活を確保する上で、馴染み関係の維持・継続は極めて重要との認識があり、外出機会での買い物や知人の受け入れ等に努められています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年々レベル的に低下してきて関わり合いも少なくなってきていて、職員を通じてのコミュニケーションとなることが多いので、各テーブルに職員が分かれて食事している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH退所後は、ほとんどの方がGH委託先と同じ法人の特養へ入所されるので職員が特養へ訪れた際に面会している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思い、意向を感じとることができており、意に添えるように努めている。表現できない方については会議や引継ぎのときに職員同士で検討している。	暮らしの中での会話や行動観察と気づき等により、一人ひとりの思い・意向の把握・記録に努めるとともに、情報の共有化が図られています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるときに家族より聞くとともに、常に情報を得るようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人のペースを大切にしている。心身状態もその日その日の状態に合わせるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者または家族の意向を踏まえて利用者本位の介護計画を作成するように努めている。	介護計画は、その人らしく暮らし続ける為のものとの認識に立ち、関係者が相談・検討・随時の見直しをなされ、現状に即した計画の作成に努められています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のGH会議や日々の気づきを通して見直し、実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に外出する機会を持っている。また、通院時においても家族の協力を得ながら、通院介助を行うときもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々のボランティア、慰問等を通じて交流している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	書面、及び職員の付き添いによってかかりつけ医とのかわりを持っている。	かかりつけ医は、本人の希望を優先した対応がなされています。なお、受診に際しては、職員の付き添いと生活情報等の提供により適切な支援が図られています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を早急に気づき、看護師へ相談または、指示を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報を共有できるように努めるとともに、面会時病院関係者と話し合っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ課題が多く、行えていないが職員内にはおこないとこの意見も出ている。	終末期への対応の必要性和強い関心を全ての職員が認識されていますが、解決すべき課題も多く、明確な方向性を確立するまでには至っていない現状にあります。	家族の関心も高いと思慮いたしますので、課題の克服による、これが実現への取り組みを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、勉強会をおこなっており、近隣居住の職員の協力を得ている。(特に夜間の場合)		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はできていないが、消火設備、非常口の確認は行っている。地元消防団の協力を得ている。(推進委員会でとりあげている) また、必要物品についてはまだ不十分ではあるが備蓄をおこなっている。	火災時に備え、緊急通報装置や消火設備等の整備とともに、地元消防団員への協力要請がなされていますが、避難・誘導訓練の実施までなされていない状況にあります。	火災発生時には、入居者を安全・迅速に屋外へ誘導する事が求められます。このことから、地元消防署の指導の下に、定期的な避難訓練の実施が望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「施設職員として」(心構えのマニュアル)に基づき、利用者に対して気を配り、特に言葉遣いに注意している。	「人格の尊重」が運営上の一つの柱である事を常に心がけ、一人ひとりに合わせた対応に努められています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、意に添うができない方には、表情・態度を気にかける。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の中でペースをあわせられる様にしているが、時には臨機応変に対応するときもある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望に添える身だしなみをおこなっている。(ヘアスタイル、服装)		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にできることを手伝ってもらっているが、決まった人に手伝ってもらうことが多い。行事のときの食事は季節感を楽しめるようにしている。	食事の準備や後片付け等能力に応じて協働され、楽しい食事環境への取り組みがなされています。なお、摂取力に合わせた調理への工夫がなされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の元でのメニューであり、量はその日の体調や体重増加等を見ながら調整している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後にはうがい、または義歯をはずして洗浄、夜間は預かりで洗浄剤を用いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時誘導、随時誘導をおこなっている。	排泄パターンの把握・記録と行動観察により、適宜トイレ誘導がなされ自立排泄への支援がなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックに記入し、全職員が把握し、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる体制はあるが、基本的には夕食前、15時30分から開始している。	基本的な入浴時間帯の設定がなされていますが、一人ひとりの希望を優先した支援が図られています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅時から本人が使用していた布団を使用している。温度調整等気をつけるとともに、本人の意に添うように支援を行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書に記載している内容を把握し、職員全員が確認し合い、症状の変化にも注意している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法、レクリエーション等を工夫しながら行っている。おやつ作り等の工夫をする。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により戸外にでかけて日光浴やドライブ、買い物を楽しむ。最近、外出機会が少なくなっていると思う。	戸外へ出掛ける事で受ける効果の有効性を認識され、広い敷地内での散歩の日常化や買い物・ドライブ等外出機会の確保に努められています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い管理は職員が主であり、本人が使用する機会は少ない。 自己管理ができる方は9名中1名である。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば意に添うようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃に努め、居心地の良い清潔な空間作りに努めている。 観葉植物を置いたり、外回りには畑を作ったり、花壇には季節の花を植えている。	明るく広い共用空間は清掃も行き届き、また、季節に合わせた適度な装飾がなされ、穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった空間の中で工夫をしており、居室にてテレビを利用される方もある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを置けるようにできるだけ考えているが、収納スペースが広いので、実際に使われていた家具を持ち込まれる方が少ないのが現状ある。	和室・洋室が準備され、利用者は好みの品等を持ち込まれ安心して過ごせる居室となっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを活かし、トイレや浴槽の手すり等で安全に生活できるよう支援するとともに、見守りを行っている。		